



高校生ネットワーク

# Astro-HS 全国フォーラム ～5000人の若き天文学者たちの挑戦～

Astro-HS 運営委員会

高橋 淳 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

日本天文学会前日の2002年3月27日、茨城県水戸市において、高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) 全国フォーラム「5000人の若き天文学者たちの挑戦」が開催された。参加者は、80名にも及ぶ全国の高校生グループとそれをサポートする高校教師、プロ・アマの研究者等総勢200名である。

## 1. 開催の経緯

これまで、Astro-HSは、主にインターネットを介した情報提供ならびに情報交換等を行ってはきたものの、高校生達が集って発表会を行うなどの、いわゆる“顔”をあわせた会合を実施することがなかった。平成13年度、Astro-HSの事業が「子ども夢基金」助成金の補助対象となったため、発足以来4年間の集大成として、このフォーラムが開催されることになったのである。

## 2. 開催の趣旨

高校生が自分たちの研究や活動の成果について発表する場を提供することを目的としているのはもちろんのことである。しかし、せっかく天文に意欲のある高校生達が集うのであれば、4年間の「まとめ」ととどまらず、研究者達との交流や、高校生達のこれからの研究活動の支援になることが望ましいとの考えから、しし座流星群を主とした太陽系天文学、ならびに2002年度の観測テーマである太陽の研究者にも、研究発表およびこれから高校生達に期待する天文観測の提案等についての発表を呼びかけた。

## 3. 支援スタッフ

Astro-HS実行委員会のスタッフには現役の大学生も存在する。彼らは、数年前までは高校生としてAstro-HSの観測に参加していた高校生達である。サポートされる側からすぐさまサポートする側に転身して活躍するメンバーがいるということも、Astro-HSの大きな特徴である。この他にも、Astro-HSの活動そのものを支援する大学生や、Astro-HSの観測活動として行われた2001年のしし座流星雨の観測データを自分の研究テーマに選んだ大学生達など、高校生にとっては親しみやすく心強い人的サポートを得ることができた。

## 4. 研究発表

参加高校は、北海道地方から九州地方にいたるまで17校に及び、そのすべての高校が口頭もしくはポスターによる発表を行った。後述するが、いずれの発表も内容が濃く、研究者の目をみはったのは言うまでもない。

また、研究者による発表も16件あった。専門的ではあるが高校生達にわかりやすい内容で、今後の高校生の研究活動に十分に刺激を与えるものであった。